

## 鳥取大学附属中学校研究業績

A List of scientific contributions made by the staff of Tottori University Junior High School  
(2016 ~ 2018)

以下のリストは、本校教員の著書・論文等の研究業績ならびに学会発表・講演を過去3カ年（2016～2018）分について教科ごとにまとめたものである。このリストは、現在は異動しているが、この期間に本校に在籍していた教員がおこなった研究成果も含む。

配列は、本校教員（下線）の氏名のアルファベット順で、同一教員の中では第1著者（第1発表者）か否かにかかわらず、発表年月日順である。

論文等については、すべてではないが、別刷のPDFファイルが鳥取大学研究成果リポジトリ (<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/>) からダウンロードいただけるものもあるのでご利用いただきたい。

編集：中尾尊洋・鶴崎展巨

## 【国語】

## 論文

1. 藤原一恵(2018)「自分の言葉で語り合う」言葉のやりとりがある学習～単元学習「おとなって何？」シンポジウム～鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 29－32.
2. 上川寛子 (2018) 「聞くこと」を重視した対話的活動．鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 17－20.
3. 齋藤隆彦 (2017) 「自立し、つながり、探求し、創造する力の育成（2年次）」『平成28年度鳥取大学地域学部学部長経費「附属学校園との教育連携実践プロジェクト研究」報告書』鳥取大学 教育・研究プロジェクト, pp. 99－130.
4. 齋藤隆彦 (2018) 主体的・対話的で深い学び」を実現する教師育成のための教職論という試み．神戸親和女子大学教職課程・実習支援センター研究年報, 創刊号, pp.65-84.
5. 山根英明 (2018) 型を用いた「書くこと」の実践．鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 21－28.

## その他

1. 齋藤隆彦 (2016) 想像力を喚起する『何もない教室』．授業力&学級経営力（明治図書），No. 72, pp. 58－59.
2. 齋藤隆彦 (2016) 発表会のとっておきアイデア 中学校．授業力&学級経営力（明治図書）No. 78, pp. 72－73.
3. 齋藤隆彦 (2018) 「むしゃむしゃ古典」で「深い学び」-「これってあれかも」体験．教育科学国語教育（明治図書），No. 819, pp.60-63.
4. 齋藤隆彦 (2018) 「なんかちよっと…」「そうきたか！」の循環．中学校国語教育相談室（光村図書），No. 181, pp.14-15.

## 【数学】

## 著書

1. 溝口達也・山脇雅也 (2017) . 新訂 関数と方程式 III : 2次関数と2次方程式 . 鳥取数学教育研究会（鳥取大学附属中学校）

## 論文

1. 中田幸一・山脇雅也・小出智栄子 (2018) 数学的活動のレイヤー論に基づく学習指導計画の開発. 鳥取大学附属中学校 No. 49, pp. 53 – 65.
2. Mizoguchi, T. & Yamawaki, M. (2016) Networking of mathematical activities through units for curriculum development: A case of “Functions and Equations”, Proceedings of the 9th International Conference on Educational Research, pp. 834-845.
3. 山脇雅也 (2018) 中学校数学科における検証を重視した統計的な探究の学習指導. 第1学年単元「データの活用」における「どんな長方形が美しいか」の授業研究, 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 45 – 52.
4. Yamawaki, M., Baisheva, M., Efremova, L. Mizoguchi, T. & Visotsky, I. (forthcoming) . Cross-border communication between Japan and Russia. Teacher Quality: Challenges in Mathematics Education (tentative title) . World Scientific Publishing Co.

## その他

1. 山脇雅也 (2016) 「補助線はこう引く！目的に応じた補助線の探究しよう！」数学教育 (2016年12月号), pp. 70 – 73, 明治図書.
2. 山脇雅也 (2017) 「主体的・対話的な深い学び」を実現する中学校数学科の授業実践とその分析. (公財) 日本教育公務員弘済会鳥取支部 平成28年度鳥取支部募集教育実践研究論文個人研究奨励賞.
3. 山脇雅也 (2017) 「特上梨をたくさん詰めるには？一次関数で箱詰めギフト」数学教育 (2017年8月号), pp. 32-35, 明治図書.
4. 山脇雅也 (2018) 「数学の事象から問題を見出し解決する活動『関数』の教材アイデア」数学教育 (2018年1月号), pp. 26-29, 明治図書.
5. 山脇雅也 (2018) 「一行リレー (学習スタイルの工夫)」数学教育 (2018年7月号), pp. 78-79, 明治図書.
6. 山脇雅也 (2019) 「板書を写す時間, どこでどのくらい確保すればいい？」数学教育 (2019年1月号), pp. 72-73, 明治図書.

## 学会発表

1. Yamawaki, M., Mizoguchi, T. & Yamamoto, Y.: Reproducing lessons about the unit ‘Functions and Equations’: Editing teacher’s guidebooks through lesson studies. The 13th International Congress on Mathematical Education, Hamburg, Germany, 27 July, 2016. (ポスター発表)
2. 山脇雅也・溝口達也: 関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究 (2): 中学校第3学年を対象とした単元を構成する考えと導入の具体. 日本数学教育学会第98回全国算数・数学教育研究 (岐阜) 大会, 岐阜, 2016年8月3日 (口頭発表)
3. 山脇雅也・溝口達也: 中学校数学科における2次関数と2次方程式の教授学習に関する研究: 統合単元「関数と方程式 III」の開発と実践, 全国数学教育学会 第45回研究発表会, 広島大学, 2017年1月28日 (口頭発表)
4. 山脇雅也・溝口達也: 関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究 (3): 2次関数と2次方程式の統合単元の実践とその分析. 日本数学教育学会第99回全国算数・数学教育研究 (和歌山) 大会, 和歌山, 2017年8月8日 (口頭発表)
5. Yamawaki, M. & Mizoguchi, T.: Lesson plan for cross border lesson between Japan and Russia, The 12th APEC-Khon Kaen International Symposium, KKU, Thailand, 9 – 12 Sep, 2017. (口頭発表)

6. 溝口達也・山脇雅也・阿部好貴・大滝孝治：カリキュラム開発における数学的活動のネットワークキング，日本数学教育学会第50回秋期研究大会，愛知教育大学，2017年11月5日，（口頭発表）
7. 山脇雅也・溝口達也：国際的な授業設計における条件と制約：日本とロシアによる「エネルギーと環境問題」の授業設計と実践を通じた分析，全国数学教育学会 第47回研究発表会，広島大学，2018年1月27日．（口頭発表）
8. Yamawaki, M., Mizoguchi, T., & Visotsk: Cross Border Lesson Study between Japan and Russia: about CO2 emission and energy supply, APEC-Tsukuba and UNESCO (MGIEP) International Conference XII, Tokyo Campus, University of Tsukuba, 8 Feb, 2018. (口頭発表)
9. 山脇雅也，溝口達也：関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究（4）：いかなる関数とみなす活動が位置づけられているか．日本数学教育学会第100回全国算数・数学教育研究（東京）大会，昭和第一高等学校．2018年8月3日．（口頭発表）
10. 山脇雅也：箱ひげ図の見方・考え方を想起する学習指導の条件と制約．第51回中国・四国算数・数学教育研究（広島）大会，国際会議場．2018年11月8日．（ポスター発表）
11. 山脇雅也：数学的活動のレイヤー論に基づく授業研究：中学校第2学年における箱ひげ図によるデータ分析の学習指導の条件と制約．全国数学教育学会 第49回研究発表会，広島大学，2019年2月9日．（口頭発表）

### 【英語】

#### 論文

1. 石田 順・竹川由紀子・足立和美（2018）英語で繋がる世界～ Large Grammar の応用と国際交流という実践の場～．鳥取大学附属中学校研究紀要，No. 49, pp. 81 – 100.

### 【理科】

#### 著書

1. 小玉芳敬・永松 大・高田健一（編）（2017）鳥取砂丘学．古今書院（東京），103 pp.（第7章．鳥取砂丘にみられる生態系．7-1. 海浜生態系の特徴（pp. 44 – 47）, 7-3. 鳥取砂丘の昆虫類（pp. 52 – 55）. 7-5. 多鯰ヶ池の動物（pp. 57）.（第8章．鳥取砂丘の植生管理と動植物への影響．8-4. 昆虫への影響．（pp. 62 – 64）を執筆．鶴崎展巨）

#### 論文

1. 服部和晃・泉 直志・高橋ちぐさ（2018）中学校理科授業におけるオーラル・アーギュメント促進のための教材開発と授業実践．鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 67 – 71.
2. 井殿加奈子（2018）理科における主体的学びを目指した授業の実践～「脊椎動物のなかま分け」「電流と電圧の規則性」の授業を事例として～．鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 73 – 76.
3. 森田美貴子（2018）「理解」をうながすためのやりくり～教えて考えさせる授業実践から～．鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 77 – 80. March 1, 2018
4. 福田みずほ・田口志奈・三浦早喜・遠藤颯之介・筒井雪未・畑 翔太・森田美貴子（2018）鳥取県東部におけるクロガケジグモのさらなる分布拡大と在来種への影響（2017年の調査結果）．山陰自然史研究，No. 15. pp. 25 – 34.
5. 鶴崎展巨・岡田 叡・杳野高也・深澤豊武・湯本祥平（2016）鳥取砂丘におけるエリザハンミョウの個体数推定（2015年）．山陰自然史研究，No. 13, pp. 1 – 10.
6. 鶴崎展巨・中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀（2016）山陰海岸ジオパークエリア

- 内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布 . 山陰自然史研究, No. 13, pp. 11 – 24.
7. 尹 振国・鶴崎展巨 (2016) 多鯰ヶ池と鳥取市大塚のため池のトンボ相 . 山陰自然史研究, No. 13, pp. 25 – 35.
  8. 鶴崎展巨・尹 振国・岩本真菜 (2016) 湖山池におけるウチワヤンマ生息最終年の羽化消長 . 山陰自然史研究, No. 13, pp. 37 – 44.
  9. Burns, M. & Tsurusaki, N. (2016) Male reproductive morphology across latitudinal clines and under long-term female sex-ratio bias. *Integrative and Comparative Biology*, 56: 1 – 13.
  10. 大高明史・木村直哉・鳥居高明・中村剛之・上島 励・阿部 渉・安倍 弘・栗城源一・鶴崎展巨・上田拓史・蛭田眞平・古野勝久・吉成 暁・吉澤和徳・香川清彦・山本 優・福原晴夫・尾瀬アカシボ研究グループ (2017) 融雪期の尾瀬ヶ原で雪に関連して見られる無脊椎動物相 . 群馬県立自然史博物館研究報告, 21: 57 – 78.
  11. 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典 (2017) 鳥取砂丘におけるハンミョウ 2 種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定 (2016 年) . 山陰自然史研究, No. 14, pp. 9 – 16.
  12. Burns, M., Hedin, M. & Tsurusaki, N. (2017) Population genomics and geographical parthenogenesis in Japanese harvestmen (Opiliones, Sclerosomatidae, *Leiobunum*) . *Ecology and Evolution*. 1 – 17. DOI:10.1002/ece3.3605.
  13. Derkarabetian, S., Starrett, J., Tsurusaki, N., Ubick, D., Castillo, S., Hedin, M. (2018) A stable phylogenomic classification of Travunioidea (Arachnida, Opiliones, Laniatores) based on sequence capture of ultra conserved elements. *ZooKeys*, 760: 1 – 36.
  14. 鶴崎展巨・唐沢重考・石川智也・猪野真也・岸田由幹・白岩颯一郎・千葉悠輔・服部理貴・福井二葉・武藤 諒 (2018) エリザハンミョウ鳥取砂丘集団の急激な個体数減少 — 2017 年の標識再捕調査結果 — . 山陰自然史研究, No. 15, pp. 7 – 14.
  15. 鶴崎紗礼・鶴崎展巨 (2018) 外来種クロガケジグモの鳥取市における分布拡大と在来種への影響 . 山陰自然史研究, No. 15, pp. 15 – 23.

#### その他

1. 鶴崎展巨・奥島雄一 (2016) アマミサソリモドキの岡山県への移入例 (クモガタ綱, サソリモドキ目, サソリモドキ科) . 倉敷市立自然史博物館研究報告, No. 31. pp. 37–38.
2. 鶴崎展巨・淀江賢一郎 (2016) 鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第 7 集 (2015 年) . 山陰自然史研究, No. 13, pp. 45–54.
3. 鶴崎展巨 (2016) アカサビスベザトウムシ・オオナミザトウムシ・ヒコナミザトウムシ・イラカザトウムシ・サトウナミザトウムシ . pp. 542–543. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編) (2016) 滋賀県で大切にすべき野生生物 . 滋賀県レッドデータブック 2016 年版 . サンライズ出版 (滋賀県彦根市), 647 pp.
4. レッドリスト上関編集委員会 (50 音順) 荒井章吾・安溪貴子・飯田知彦・岡野友紀・粕谷俊雄・加藤 真・金井塚務・佐藤正典・嶋田淑子・神保宇嗣・鶴崎展巨・西海 功・山下博由・山本尚佳 (2016) レッドリスト上関 2016 山口県上関の希少野生動植物 . 上関の自然を守る会 (代表 高島美登里), 山口県熊毛郡上関町 26 pp.
5. 鶴崎展巨 (2016) 第 20 回国際クモ学会議 (2016 年 7 月 2 – 9 日, アメリカ合衆国コロラド州ゴールデン) 印象記 . *Acta Arachnologica*, 65 : 100 – 105.
6. 鶴崎展巨 (2017) コウヤスベザトウムシ・オオナミザトウムシ・ヒコナミザトウムシ . p. 344. アカサビスベザトウムシ p. 721. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編) 大切にしたい奈良県の野生

- 動植物 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版 . 奈良県くらし創造部景観・環境局 景観・自然環境課, 791 pp.
7. 下謝名松栄・鶴崎展巨 (2017) クメコシビロザトウムシ (pp. 408 – 409. オヒキコシビロザトウムシ (pp. 412) In: 沖縄県環境部自然保護課 (編) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 動物編 レッドデータおきなわ, 沖縄県環境部自然保護課, 712 pp.
  8. 鶴崎展巨・淀江賢一郎 (2018) 鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第8集 (2016年), 山陰自然史研究, No. 15, pp. 49 – 57.
  9. 鶴崎展巨・淀江賢一郎 (2018) 鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第9集 (2017年), 山陰自然史研究, No. 15, pp. 59 – 67.
  10. Tsurusaki, N., Svojanovská, H., Schöenhofer, A. & Štáhlavský, F. (2018) The harvestmen cytogenetic database) <http://www.arthropodcytogenetics.bio.br/harvestmendatabase/index.html>

学会発表・講演等

1. 服部和晃・泉 直志・高橋ちぐさ：中学校理科授業におけるオーラル・アーギュメント促進のための教材開発と授業実践. 第66回日本理科教育学会中国支部大会 鳥取大学共通教育棟(鳥取市), 2017年11月18日(口頭発表)
2. 井殿加奈子・高橋ちぐさ・泉 直志：中学校理科における協働的学習の授業実践 – 「無脊椎動物のなかま」の授業を事例として-. 第66回日本理科教育学会中国支部大会 鳥取大学共通教育棟(鳥取市), 2017年11月18日(口頭発表)
3. 鶴崎展巨：鳥取砂丘におけるハンミョウ類の分布・生活史と個体数推定の試み. ふしぎ発見！鳥取砂丘. 鳥取砂丘調査研究報告会(鳥取砂丘再生会議保全再生部会調査研究会, 鳥取県), とりぎん文化会館第2会議室(鳥取市), 2016年1月23日(依頼講演)
4. 中山 桂・井上健人・柏木峻秀・板井竜二郎・鶴崎展巨：山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月14日(ポスター発表)
5. 鶴崎展巨・岡田 叡・沓野高也・深澤豊武・湯本祥平：鳥取砂丘におけるエリザハンミョウの個体数推定. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月14日(ポスター発表)
6. 鶴崎展巨・川上大地・横山瑞歩：丹後山地(京都府・兵庫県)と布引山地(三重県)におけるアカサビザトウムシの染色体数の連続的で急激な増加. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月15日(口頭発表)
7. Tsurusaki, N. & Fukagawa, H. : Mass findings of an uncommon spider *Prodidomus rufus* from Komon-jo: Time capsule of indoor spider fauna from Edo Period. The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月3日(ポスター発表)
8. Tsurusaki N., Kawakami, D., & Yokoyama, M.: Cascading increase of the chromosome number showing concentric rings in *Gagrellula ferruginea* (Arachnida: Opiliones) in two different mountains in Japan. The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月3日(口頭発表)
9. Burns, M., Hedin, M., & Tsurusaki N.: Population genomics and geographical parthenogenesis in Japanese harvestmen (Opiliones, Sclerosomatidae) . The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月8日(口頭発表)
10. 井上健人・鶴崎展巨：鳥取県西部日野川左岸で見つかったアカサビザトウムシ(ザトウムシ目

- カワザトウムシ科)の染色体交雑帯とその性質.平成28年度日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部合同例会,会場:鳥取大学広報センター,2016年10月21日(口頭発表)
11. 鶴崎展巨:砂丘生物講座。「鳥取砂丘の昆虫の自然史.絶滅危惧昆虫の多様な顔ぶれとそれらの生態.平成28年度鳥取砂丘大学 砂丘生物講座. 民営国民宿舎ニュー砂丘荘大会議室,2016年11月5日(依頼講演)
  12. 井上健人・鶴崎展巨:鳥取県日野川流域におけるアカサビザトウムシの染色体数の地理的分化と染色体交雑帯の性質.鳥取県生物学会2016年度例会,鳥取県立博物館講堂(鳥取市),2016年12月18日(口頭発表)
  13. 鶴崎展巨・山根一眞:鳥取市雨滝で見つかった鳥取県初記録となるオオナミザトウムシ.鳥取県生物学会2016年度例会,鳥取県立博物館講堂(鳥取市),2016年12月18日(口頭発表)
  14. 鶴崎展巨:鳥取砂丘から第2の絶滅種を出さないためにーエリザハンミョウの個体数の推定ー.ふしぎ発見!鳥取砂丘.鳥取砂丘調査研究報告会(鳥取砂丘再生会議保全再生部会調査研究会,鳥取県),とりぎん文化会館第2会議室(鳥取市),2017年1月22日(依頼講演)
  15. 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典:鳥取砂丘におけるハンミョウ2種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定.生物系三学会中国四国支部大会高知大会,高知大学(高知市),2017年5月13日(ポスター発表)
  16. 鶴崎展巨・井上健人:鳥取県日野川左岸で見つかったアカサビザトウムシ(クモガタ綱ザトウムシ目カワザトウムシ科)の染色体交雑帯とその特異な性質.日本動物分類学会第53回大会,海洋研究開発機構横浜研究所(横浜市),2017年6月3日(口頭発表)
  17. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉:アカサビザトウムシ(クモガタ綱)におけるヘテロ接合核型が高適応度を示す染色体交雑帯.日本進化学会第19回大会,京都大学吉田キャンパス(京都市),2017年8月24日(口頭発表)
  18. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉:アカサビザトウムシ(クモガタ綱ザトウムシ目)で見つかったヘテロ接合核型に有利な染色体交雑帯.日本昆虫学会第77回大会愛媛大学(松山市),2017年9月4日(口頭発表)
  19. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉:アカサビザトウムシにおけるヘテロ接合核型優位の染色体交雑帯.染色体学会第68回大会,広島大学学士会館(東広島市),2017年10月7日(口頭発表)
  20. 鶴崎展巨・柏木峻秀・唐澤重考:九州・屋久島産のアカサビザトウムシ種群の核型と分子系統解析:二重侵入仮説の却下.日本蜘蛛学会第49回大会琉球大学大学会館(沖縄県西原町),2017年11月4日(口頭発表)
  21. 鶴崎展巨・坂本千紘・湯本祥平:東北地方における数種ザトウムシの染色体数の地理的分化.日本蜘蛛学会第49回大会,琉球大学 大学会館(沖縄県西原町),2017年11月4日(ポスター発表)
  22. 鶴崎展巨・深谷信一・川野敬介・唐沢重考:鳥取県初記録となるフサヤスデの2「亜種」とその分類学的扱い.鳥取県生物学会研究発表会,鳥取県立博物館(鳥取市),2017年12月2日(口頭発表)
  23. 鶴崎展巨・佐々木慎平・唐沢重考・川本篤示・柏木峻秀・上島 励:中国地方西部と四国の“アカサビザトウムシ”の色斑・核型の地理的分化と分子系統:予想外の結論,第41回日本土壌動物学会大会同志社大学理工学部,2018年5月26日(口頭発表)
  24. 鶴崎展巨・柏木峻秀・唐澤重考:九州地方のアカサビザトウムシ種群(クモガタ綱ザトウムシ目)の核型と分子系統:屋久島経由二重侵入仮説の却下と予想外の系統関係.日本動物分類学会第54回大会,鹿児島大学郡元キャンパス,2017年6月10日(口頭発表)

25. Burns, M. & Tsurusaki, N.: Influence of sexual conflict on reproductive mode and fecundity in a facultative parthenogen. SMBE, Society for Molecular Biology and Evolution, Yokohama, Pacifico Yokohama, Yokohama, 2018年7月11日(ポスター発表)
26. 鶴崎展巨・佐々木慎平・唐沢重考・川本篤示・柏木峻秀・上島 励: 中四国のアカサビザトウムシ種群の核型分化と系統地理: コゲチャザトウムシ=クロザトウムシ. 日本蜘蛛学会第50回大会, 広島大学東千田キャンパス, 2018年8月25日(口頭発表)
27. 川本篤示・鶴崎展巨: 愛媛県久万高原町におけるイラカザトウムシの染色体交雑帯の初確認と核型分化. 日本蜘蛛学会第50回大会(広島大学東千田キャンパス), 2018年8月25日(ポスター発表)
28. 鶴崎展巨: 東千田町産のクモガタ類の多様性生物学と中国山地における本類の種分化. 日本蜘蛛学会第50回大会(広島大学東千田キャンパス), 2018年8月26日(シンポジウム講演)
29. 鶴崎展巨・佐々木慎平・唐沢重考・川本篤示・柏木峻秀・上島 励: 九州広島型アカサビザトウムシと四国のクロザトウムシの意外な近縁性. 日本動物学会第54回大会(札幌コンベンションセンター, 札幌市), 2018年9月13~14日(ポスター発表)
30. Tsurusaki N.: Size matters: Possible cases of character displacement in Japanese harvestmen for preventing reproductive interference. the 21st International Congress of Arachnology. University of Canterbury, Christchurch, New Zealand, 2019年2月11日(シンポジウム講演)
31. Tsurusaki, N., Inoue, T., Matsumoto, M.: Chromosomal hybrid zone showing heterozygote superiority in *Gagrellula ferruginea* (Opiliones). the 21st International Congress of Arachnology. University of Canterbury, Christchurch, New Zealand, 2019年2月11日(ポスター発表)

### 【社会科】

1. 梶川 昇 (2018) 人口減少社会を生きる力を育てる社会科授業実践. 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 41 - 44.
2. 村山明生 (2018) 地元の資源を授業にどう取り上げるか ~日本一の湖山池と社会科学習~. 鳥取大学附属中学校研究紀要, No. 49, pp. 33 - 39.

### 【保健・体育・健康教育】

#### 論文

1. 吉田有希・安井 仁 (2018) バレーボールの意欲を高める戦術を扱った授業の検討. 鳥取大学附属中学校研究紀要, No. 49, pp. 115 - 120.

#### その他

1. 山田由美子 (2018) 健康教育部分科会報告. 健康教育に関するデータの効果的な活用方法 ~ライフスタイル自己点検~. 鳥取大学附属中学校研究紀要, No. 49, pp. 129.

#### 学会発表

1. 山田由美子・安井 仁・田中佑果・近藤 卓 (2016) 健康教育としてのいのちの授業 保健学習「ストレスの対処と心の健康」~感情の共有と自尊感情~ 日本いのちの教育学会第18回大会, 山陽学園大学(岡山市), 2017年2月25日(ラウンドテーブル)

## 【美術】

## 論文

1. 木村信一郎 (2018) 美術科の「やりくり」のたとえば ～「作品との対話」－多様な視点で物事を見つめ、その世界観を深める力－. 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 107－113.

## その他

2. 木村信一郎 (2018) 作品との対話－みる・なる・しる－. 幼稚園から大学まで美術教育の流れを体感する展覧会－全国美術・教育リサーチプロジェクト2018－美術の授業ってなんだろう？東京藝術大学美術館本館3階（東京都），2018年10月2日－2018年10月21日（ポスター発表），

## 【音楽】

## 論文

1. 鈴木慎一郎・廣富恵美子・大野桂 (2016) 音楽授業の「導入」における現状と課題－鑑賞と言葉に着目して－. 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要 . 2016, 12 (3) , pp. 157－170.
2. 鈴木慎一郎・大野桂・廣富恵美子 (2017) 小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発の基礎調査－教科書分析を通して－. 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要 . 2017, 13 (1) , pp. 49－61.
3. 鈴木慎一郎・廣富恵美子 (2018) 中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発－《ソーラン節》を通して－. 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要 . 2018, 14 (2) , (受理済み)
4. 廣富恵美子 (2018) 歌唱表現における意欲の高まりを図る指導の手立て～日本の民謡におけるコブシの表現を通して～. 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 101－106.

## その他

1. 廣富恵美子 (2016) 「やりくりのたとえば」, 教育音楽 中学・高校版 (音楽之友社) 2016年8月号, p. 60.

## 学会発表

1. 鈴木慎一郎・大野桂・廣富恵美子 : 小中大連携による音楽授業の現状と課題 : 2015 (平成27) 年度研究発表大会に着目して, 日本音楽教育学会第47回大会, 横浜国立大学, 2016年10月9日 (口頭発表)

## 【技術科】

## 論文

1. 中尾尊洋 (2017) プログラムの理解を促すアンプラグド・アクティビティの開発, (公財) 東京海上日動教育振興基金第34回教育研究助成事業採択 (個人研究の部)
2. 中尾尊洋 (2018) プログラミングの多様性を引き出すワンボードマイコンの活用. 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 121－128.
3. 中尾尊洋 (2018) 自立し, つながり, 探究し, 創造する力を育成する学校教育の研究～鳥取大学附属中学校における実践を通して～, 鳥取大学附属中学校研究紀要 No. 49, pp. 5－15.



## その他

## 学位論文

1. 中尾尊洋 (2016)「中学校技術科教育における創造的思考力の育成に関する研究」, 鳥取大学大学院, 学位論文 (修士)

## 学会発表

1. 中尾尊洋・土井康作 (2016) : 計測・制御プログラムの学習における時間概念を発想させる教授法の効果, 日本産業技術教育学会第 59 回全国大会, 京都教育大学, 2016 年 8 月 27 日 (口頭発表)
2. 中尾尊洋・土井康作 (2017) : プログラミングの思考力育成に関する実証的研究, 日本産業技術教育学会第 60 回全国大会, 弘前大学, 2017 年 8 月 26 日 (口頭発表)
3. 中尾尊洋 (2017) : 試行錯誤を通して知識・技能の獲得を促す授業展開の工夫～教えない道具の学習をプログラミング学習に活かして～, 子どもの遊びと手の労働研究第 44 回全国大会, 兵庫県神戸市寿楼臨水亭, 2017 年 8 月 6 日 (口頭発表)